

NO.23 「第一次戦後派文学」を読む

－ 埴谷雄高篇

■講座内容

大地震、原発事故、と乱世です。ある批評家が「核戦争では人類がゴキブリのように生き残る」と言ったように、危機においてかえっていきいきとするのが文学者だ。…と私は思います。「第一次戦後派」とは、第二次世界大戦直後に現れた新人文学者達を指します。埴谷雄高、梅崎春生、野間宏などです。彼らとその時代を論じながら、乱世で生きることについて考えます。今年度は、戦前に左翼活動で捕縛され、戦後は雑誌の『近代文学』の首領として君臨した埴谷雄高の小説などについて論じます。一見、非常に難解な文章を書く埴谷ですが、その実、非常に自由でひょうきんな作家です。

■開講日時 1月8日(火)～2月5日(火) (全5回)

■担当講師 渡邊 史郎(香川大学教育学部准教授)

■募集人員 30人

■受講対象 一般成人

■会場 香川大学生涯学習教育研究センター

■受講料 5,200円

■受付締切 12月27日(木)

回	月日	時間	テーマ
1	1月 8日(火)	10:00～12:00	洞窟
2	1月15日(火)		虚空
3	1月22日(火)		不合理故に我信ず(評論活動)
4	1月29日(火)		死霊(1)
5	2月 5日(火)		死霊(2)

※国語辞書、電子辞書をお持ち下さい。